

万博探究

C-2

東保 松田 吉原

目的

今回の万博では、“それぞれの夢に向かって一歩近づくこと”を目標に『食事・国色・医療』の三点に特に注目してパビリオンをまわった。一見関わりがないように見えるキーワードだが、だからこそより充実した万博探究になったと考える。

万博で訪れた場所

私たちは実際に12のパビリオンをまわることが出来た。また、始めまわりたいと考えていた「EARTH MART・イタリア館・国連館・赤十字館・フランス館」に加えて、「サウジアラビア館・スペイン館・ドイツ館・EU館・ハンガリー館・国際機関共同館・ミャクミャクハウス」にもまわることができた。準備の段階ではどのパビリオンも予約がいっぱいで1つも取れなかったのだが、当日予約を活用することで多くのパビリオンをまわることができたと思う。

資料写真



『食事』に関するパビリオン

食に関するパビリオンとして「EARTH MART」に行った。このパビリオンでは命の大切さや、普段私たちが何気なく食べているものがどれほどの命の上に成り立っているのかを知った。特に牛や豚、鶏の赤ちゃんの写真は衝撃的だった。また、世界中の人がいつもどんなものを食べているのかを知った。国によっては既製品が多かったり、量が少なかったり、肉が中心だったりした。ほかにも子どもたちが考えた料理や近い将来訪れるかもしれない食の未来などが展示されていて、とても興味深かった。

『国色』に関するパビリオン

国色に関するパビリオンとして「イタリア館」、「フランス館」に行った。これらのパビリオンでは様々な展示方法で芸術や技術を楽しむことができた。イタリア館では巨大なアトラス像やレオナルド・ダ・ヴィンチの本物のスケッチなど、めったに見ることのできない作品に触れられた。また、フランス館ではルイ・ヴィトンやディオールなど、有名ブランドの展示を観ることができた。光と影が織りなす空間が続き、あっという間に時間が過ぎていった。

資料写真



『医療』に関するパビリオン

国際赤十字館では、ジュネーヴ条約の成立過程や赤十字の活動の歴史が詳しく展示されており、戦争や災害時の支援の実態をリアルに感じることができた。また、実際に使われた医療器具や救援物資、被災地の写真や証言映像も展示されており、平和や人道支援の意義を深く学ぶ貴重な体験となった。

まとめ

万博では、世界各国の文化や最新技術などを学び、班員一人ひとりがやりたいことをとことん突き詰めることができたと思う。また、様々なパビリオンをまわり、普段とは違う視点で物事をみることで自分の好きなことが他の人の幸せに繋がる事ができるということを実感する良い機会となった。

展望

今回の活動を通して様々なことを学ぶことができた。インターネットが普及し、世界中の情報が手に入るようになった今だからこそ、このような経験をすることができたのはとても重要だと思う。学校の探究活動で万博に参加することができた事を感謝し、これからの各々の生活に活かしていきたい。